

青梅市文化財ニュース

第 2 8 9 号

平成 2 3 年 1 1 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859）

スズメ観察のススメ

スズメはツバメやカラス（の仲間）と共に、昔から人に親しまれてきた野鳥で、昔話、歌、ことわざ、家紋等々、いろいろな場面で登場します。

日本では、いわゆるスズメの仲間は 3 種類が確認されています。スズメ（学名、*Passer montanus*：山のスズメ）、ニュウナイスズメ（*P. rutilans*：赤く輝くスズメ）、イエスズメ（*P. domesticus*：家のスズメ）ですが、青梅周辺で見られるスズメは、確率的にまず普通の「スズメ」と思ってよいでしょう。主に人家や人工物の隙間などに営巣するのですが、街路樹の樹洞や巣箱なども利用します。日本では人家周辺に生息しますが、ヨーロッパでは市街地周辺の山林に生息し、市街地にはイエスズメが分布します。スズメはユーラシア大陸に広く分布し、北アメリカとオーストラリアの個体は人為分布とされています。広い自然分布域を持つ「スズメの仲間」の起源は、熱帯アフリカと考えられ、他の大陸に比べて多くの種が生息しています。

昔から人との共生関係を築いて生活してきたスズメですが、最近、市街地を中心に、個体数が減ってきたのではないかといわれ始めました。原因については、まだ断定的ではないのですが、主な営巣場所である人家の構造が、新建材や工法の変化で密閉化し、巣を作れる場所が少なくなったためとされます。個体数が減少しているといわれているのですが、まだ具体的なデータは多くありません。昔から人に親しまれ過ぎているために、その動向があまり注目されなかったからです。そうした意味では、よく知られていない野鳥といえるかもしれません。

青梅市内でも、大荷田や小曾木地区の個体数を調べると、冬期の個体数は約 20 年前のそれと比べると、大幅に減少しています。しかし、繁殖期の個体数には、まだあまり大きな変化はないようです。これらの地域では、繁殖場所はまだあるものの、越冬地としての利用価値が減少しているということなのかもしれません。冬期とはいえ、その個体数の変化は気になります。トキやコウノトリ、オオタカなどは今、希少種として注目され、いろいろな調査研究や保護対策がとられています。スズメはどこにでもいる普通種ですが、これがいつの間にか希少種になっていた、というケースも考えられます。

スズメを調べると、スズメのことだけではなく、人工化の程度、人の生活形態の変化など、人に関するいろいろなことも解りそうです。青梅市の地形は、山間地から平坦地まで大きく変化します。スズメの生息数も、地域や環境により大きく変わるので、スズ

メの動向を調べるのには、なかなか面白い場所のように思えます。本格的な調査でなくても、巣の有無、鳴き声の多寡、冬の群れの大小等、日常的に接する範囲内でも、スズメに関する情報はそれなりに得ることができます。 (文責 櫻岡 幸治)